

令和7年度第3回療育に関する情報交換会 議事録

□ 開催日時 1回目：2/12（木）10:00～11:30

2回目：2/17（火）10:00～11:30

□ 場 所 兵庫県龍野庁舎 第1会議室

□ 内 容

【R7.10.24 合同部会 開催報告】

→ 鈴置コーディネーターより報告

【意見交換】（テーマ：保護者（家族含む）支援について）

→ a氏よりきょうだい児についての事例紹介。

（事例）bに8年間通っている9歳のA君（全介助）。中学校3年生の姉BちゃんはAくんが通い始めた頃からお手伝いのために送迎等についてきており、挨拶を交わす仲だった。Bちゃんが中学校2年生から不登校になり、bに通うことに。通うことになって初めてゆっくりお話しできた。Bちゃんから「私、甘えたいんや。」と言われ、Bちゃんのことはいさよから知っていたが、いつも笑顔でお姉ちゃんっぽい振る舞いをしていたこと、Bちゃんとしてもそれが決して嫌だったわけではないが色々溜まってしまっていたことに初めて気が付いた。また、「A君はどうなるのか?」「一緒に暮らせないのか?」「お父さんやお母さんがいなくなったら、どうなるのか?」など、周りに相談できずに悩んでいたことも分かり、「家族や周りの大人、病院など、みんなで話し合っ将来について考えようね」と伝えた。

この事例から、利用者と会話することはあっても、家族と話すことはなかなかないことを痛感し、家族の支援も大切だと改めて感じた。

→ 意見交換後、各班で出した意見について発表。

○ 2月12日（木）

（1班）きょうだい児への支援の難しさを感じており、同様のケースがあった。保護者の交流会を開催するにあたっては、事業所のサイズも関係しており、小規模な事業所の場合はもともとの保護者が少ないため、開催をためらってしまう。一方で、クッキング等、父親の会を開く事業所もあった。また、学校との連携が薄いのではないかと感じているが、学校と話す機会を得るのが難しい。くわえて、夫婦間で意見が異なるケースがよくあり、まとまらないところに支援者がどう介入するかが難しい。

（2班）兄弟の支援は難しいと感じた。児発に通所している子のご兄弟の方が学校に行きにくくなり、放デイで見ることにした事業所があった。一方で、不登校で見る枠を作ったという事業所もあった。中3のお兄ちゃんが不登校で…というケースもあり、対応方法を模索している。家族で参加できるようなプログラムを開催し、兄弟で参加しているケースもあるとお聞きし、そういった場面

ではご家族の姿や関係性を見れるため、良い試みだなと思った。親子プログラムについては、送迎の問題もあり、参加者がなかなか集まらない。一方で、頑張っている事業所もあり、お母さん同士が仲良くなることもあるとのこと。保護者支援という点では話を聞くことや信頼関係を築くこと等も大事だが、送迎する中ではリアルタイムでお話できない、保護者支援を組み込めないという課題がある。また、保護者支援をするにあたって、事業所でできることは話を聞く程度に限られていたり、踏み込めないこともある。学校や保育所など、繋がっているところにそれぞれできることがあるので、そこでのネットワークを築くこと、そのうえでできることを考えていかないといけないと感じた。

(3班) 子どもが家庭内暴力をしているケースへの介入の難しさ、ライフステージが変わることについての学校との関係性の難しさ、子どもが18歳を超えると支援の幅が狭まることの難しさ等について話し合った。働き出してからも慣れるまで時間のかかる子が多いため、18歳を超えたときのことについては、訪看と新しい道を探していく必要がある。服薬に否定的な保護者や、保護者は寛容的だが子どもが服薬を嫌がるケースなども対応が難しい。

(4班) 保護者と話そうにも、送迎の時に会えない、また、会えても時間をオーバーしてお話を聞くことになるため難しい。モニタリングのときに子どもと一緒にモニタリングをする事業所があったが、子どもと保護者で言っていることが違ったり、子どもと保護者のニーズが違いすぎるがゆえに保護者が子どもの意見を否定する(「それは続かないだろう」など)ようなケースがあるため、フォローは永遠の課題。学校とのトライアングルができていない子もいればできていない子もいるので、密に連携がとれれば良いと思う。

(5班) 兄弟関係については、保護者がどちらに集中するかという偏りでいろんなことが起きる。兄が支援学校、弟が不登校というケースにおいては、セパレートして対応するなどした。過去には、お母さんに毒性があって手を出してしまうケースなどもあったが、事業所として何ができたのか今も悩んでいる。ネグレクトに繋がるケースなどもあるため、福祉にしっかり繋げていくことを考える必要がある。保護者と話す機会が多い事業所では、できるだけ話を聞いて安心させてあげること、「困ったことがあったらいつでも連絡してね」と繋がっている安心感を与えること、各種機関と情報共有を図ることが大切。また、「将来のために」とついつい言いがちだが、子どもの選択肢に余白を持った対応をしたいと感じている。事業所には見通しを伝える役割もあるが、言い方やタイミングなども考えていきたい。就学について、保護者間で意見が割れると困る。保護者が「絶対に地域の学校に行ってほしい」「学校に行かせたくない」などと思ってしまうと、子どもの選択肢が狭まってしまう。事業所ができることとして、選択肢の中で情報を整理して伝えることも大事だが、接する側の「どういう選択をとっても成長できる」というポジティブな気持ちが伝わることも大事。

○ 2月17日(火)

(1班) それぞれの事業所の取り組みや課題について意見交換した。共通の課題は、サービス担当者会議をする設定になっているが、ちゃんとしている相談支援事業所とちゃんとしていない相談支援事業所に分かれてしまっていること。

(2班) 事業所の様子や利用者、保護者対応について話しながら事例検討などを行った。事業所の個性があり、いろんな話が飛び交った。保護者との関係性構築のために連絡ノートを利用しているかについては、6事業所中3事業所はアプリ、3事業所は手書きの連絡ノートを利用していた。子どもの送迎はドライバーがしているのか、指導員がしているのかについては、保護者とのコミュニケーションの取り方や話の深さが様々だった。兄弟で通われている家庭の保護者は大変な状況だとは思いますが、なかなか込み入った話はしにくいので、電話で話している。事業所によっては、強度行動障害の子については休みの日も対応しており、事業所の苦労が見えた。

(3班) どの事業所でも保護者からの送迎希望が多い。保護者からの要望について、どこまで要望を受け入れて対応するかの線引きが難しい。

(4班) 家庭への支援について、保護者が壁になってしまうときにどうするか。療育の事業所だけではどうしようもないので、相談支援事業所や医療と連携しながら進めていく。信頼関係をどう築くかについては、子どもや保護者に先生を好きになってもらうことが大事。支援していくうえで、一緒に喜び、難しい部分は工夫しながら伝える等、保護者に響くようなことをしていければ。

(5班) 事業所としての困りごとについて意見交換を行った。兄弟での利用ケースが増加傾向。他の事業所との併用も多い。保護者としては兄弟で同じところに通ってほしいという気持ちもあるとは思いますが、兄弟喧嘩をしてしまうケースが多いので、場所を離したり、支援の仕方を工夫するのが良い。アプリやシステムについても話し合い、他の事業所の話が聞けて良かった。また、請求については、引き落としが3事業所、集金が3事業所あり、どんなソフトを使っているかなどの情報も聞いた。保護者が知的障害を持っているケースもあり、家庭環境が悪いことも。どこから支援していくべきか、困りごとになっている。その場合、保護者に連絡しても伝わらないので、保護者の保護者に電話するが、高齢化に伴い、入院されていることもある。保護者が通っている事業所に連絡をとり、その事業所と連携して進めているケースも。保護者から相談してくれれば動けることもあるが、「関わらないで」と言われてしまうと支援できないので、今後どう支援していくかが課題。

(6班) 重いケースについて話し合った。相談支援事業所の相談員が走り回ってくれて有難かった。事業所で工夫していることについて、送迎や夏休み利用のときに「カップ麺やレトルトでも良いよ」とするなど保護者の負担を軽減している。また、給食を活用することも可能。LINEやInstagramを使っている連絡も家族支援に繋がっている。茶話会の開催について、「支援者からの言葉だと受け

入れられないが、保護者同士の言葉なら受け入れられるのではないか」という意見もあり、「小さな工夫をすれば少人数でも参加いただけるのではないか」という話が出た。

(a 氏講評)

事業所は地域における資源の1つ。保護者の要望にどこまで対応したら良いのか等、みなさんの日常の仕事の中にはもどかしいことや世間の枠におさまらないことがたくさんあることと思う。すぐには解決しないこともあると思うが、このような場で他の事業所と話したり、話を聞くことで、困りごとだけでなく、好事例などについても情報交換でき、子ども達と日々向き合う中でのヒントになったのではないかと思います。

【お知らせ】

- 来年度の療育に関する情報交換会の運営方針について（龍野健康福祉事務所）
- 加工品開発会議にかかるお披露目会の開催について（龍野健康福祉事務所）
- フォローアップ研修の開催について（鈴置コーディネーター）

【当日の様子】

